

令和2年度シラバス（国語）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科（科目）	国語総合	単位数	4単位	学年（コース）	1学年（商業関連学科）
使用教科書	大修館『精選 国語総合』新訂版				
副教材等	『全訳コンパクト古語辞典』（ベネッセ）、『新版五訂完全マスター古典文法』（第一学習社）『完全マスター古典文法準拠ノート』（第一学習社）、『新明説漢文ノート』（尚文出版）、『プレミアムカラー国語便覧』（数研出版）、『頻出漢字マスター3000』（尚文出版）				

1 学習目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

2 指導の重点

- ①文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読み、書き手の意図をとらえる。〈読むこと〉
- ②論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自己の考えを文章にまとめる能力を身につける。〈書くこと〉
- ③話題についてさまざまな角度から検討して自分の考えを持ち、論理の構成や展開を工夫して意見を述べる。〈話すこと・聞くこと〉

3 学習計画

期	単元名	教 材	学 習 活 動（指導内容）	時間
一学期中間	随想	挑戦	・本文の内容を的確に理解する。	11
	評論	まずは形から	・評論に述べられた内容から筆者の考え方を読み取り、他者との関わり方について考える。	
	説話	宇治拾遺物語「児のそら寝」 古文を読むために1、2	・音読を通して古文のリズムを感じ取る。 ・動詞の活用を理解する。 ・古語辞典の使い方を身につける。	12
一学期期末	小説	羅生門	・人物や情景の描写の特徴、比喩によるイメージの喚起など、小説の表現効果に注意して読む。 【魅力的なプレゼンテーションができるよう工夫する。】	15
	言語活動	お薦めの本を紹介しよう		
	古文入門	宇治拾遺物語「絵仏師良秀」	・古文に親しみを持ち、話の面白さを理解する。 ・形容詞、形容動詞の活用を理解する。	15
二学期中間	漢文入門	訓読の基本	・訓読のきまり、書き下し文のきまりを理解する。	
	詩	自分の感受性くらい	・構成をとらえ、リズムを味わい、詩の主題をとらえる。	14
	評論	水の東西	・日本と西洋の文化の違いを二項対立の表現から読み取る。	
二学期中間	随筆	徒然草「これも仁和寺の法師」 「高名の木登り」	・文章の構成や展開を確かめながら、辞書を引いて現代語訳し、内容を的確に捉える。 ・基本的な助動詞の働きを理解する。	14
	故事成語	「借虎威」	・平易な文章の漢文に慣れ、漢文独特のリズムを味わう。 ・故事成語の成り立ちを理解する。	

二 学 期 期 末	小説	セメント樽の中の手紙	・語りの文体に触れ、文学的表現を味わい、主題をとらえる。	10
	物語	伊勢物語「芥川」	・古語辞典や文法テキストを用いて独力で口語訳する力を身につける。 ・基本的な助動詞の働きを理解する。	20
	古代の史話	臥薪嘗胆	・やや長めの漢文を読んで、句法テキストを用いながら内容理解に取り組む。	
三 学 期 期 末	評論	空気を読む	・比較的難解な語句の多い長めの評論文を構成に注意して読み進め、筆者の考えを的確に読み取る。 ・文章の構成や展開を確かめながら、キーフレーズやキーセンテンスに注意して本文を読み取る。 【立場ごとにチームを決め討論に取り組んでみる。】	19
	言語活動	ミニ討論会をしよう		
	短歌・俳句	短歌 十五首 俳句 十二句	・短歌や俳句のリズムを味わい、そこに描かれている情景や心情を理解する。	19
	軍記	平家物語「木曾の最期」	・音読を通して、軍記物のリズムを味わい、登場人物の心情を理解する。 ・基本的な敬語事項と敬意の方向についての考え方を理解する。	
	唐代の文章	雑説	・基本的な句法を理解して現代語訳に取り組む。 ・人物像を浮かび上がらせて、心情を理解する。	
	漢詩	唐詩	・漢詩の形式を理解し、情緒を味わうことができる。	

計149時間(47分授業)

4 評価基準と評価方法

観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
内容	国語で伝えあう力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞きとったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
方法	・学習活動への参加姿勢や態度 ・ノート、プリント	・学習活動における発言内容や態度 ・ノート、プリント	・感想文や鑑賞文などの、作成した文章 ・ノート、プリント ・小テスト ・定期考査 ・課題考査	・学習活動における発言内容や態度 ・ノート、プリント ・定期考査 ・課題考査	・学習活動における発言内容 ・ノート、プリント ・小テスト ・定期考査 ・課題考査

5 担当者からの一言

私たちは言葉を使って思考し、考えを表現し、他者に伝達します。より深く考え、よりよく表現するには自分の中の言葉を豊かにしていく必要があります。本授業では様々な文章を読解、鑑賞し、考えをまとめ、表現する場を設けていきます。授業を通してみなさんの言語世界が豊かなものになることを期待します。

令和２年度シラバス（公民）

学番９ 新潟県立新潟商業高等学校

教科（科目）	公民（現代社会）	単位数	２単位	学年（コース）	１学年（商業関連学科）
使用教科書	第一学習社 高等学校 改訂版 新現代社会				
副教材等	フォーラム 現代社会（とうほう） 用語集現代社会＋政治経済(清水書院)				

１ 学習目標

現代社会の諸課題について、政治・経済、社会・文化・倫理などさまざまな観点から探求し、時事的な問題を切り口に、現代社会に対する興味・関心を高める。現代社会について多角的な視点から考察させるとともに、現代社会と自己との関わりに注目させ、いかに生きるかを主体的に考えさせる。

２ 指導の重点

現代社会の基本的な問題にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考え、よりよい社会の実現に向けて参加・協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深める。現代社会の基本的な問題と人間としての在り方生き方にかかわる事柄や学び方を理解し、その知識を身に付けていく。

３ 学習計画

学 期	単元	学習内容	時 間
１ 学 期 中 間	第１編 わたしたちの生きる社会 １ 環境と私たちの生活 ２ 資源・エネルギー問題と私たちの生活 ３ 科学技術の発達と私たちの生活 ４ 高度情報社会と私たちの生活	・幸福、正義、公正などの倫理的な視点を多面的に、環境や生命や情報などをよりどころに考えていく。	12
１ 学 期 期 末	第２編 現代の社会と人間 第１章 青年期と自己の形成 １ 青年期とは ２ 青年期を充実させるために ３ 伝統や文化とのかかわり ４ 祭りと年中行事 ５ 社会とのかかわり ６ 私たちの生きがい 第２章 個人の尊重と法の支配 １ 個人と国家 ２ 法の支配 ３ 基本的人権の保障 ４ 世界の政治体制	・現代社会の特質や青年期の意義について理解させ、自己形成の課題として問題をとらえ、主体的にいかに生きるかを考えさせる。	14
２ 学 期 中 間	第３章 現代の民主政治と政治参加 １ 日本国憲法の基本原理 ２ 平和主義と日本の安全保障 ３ 冷戦終結後の防衛問題 ４ 平等に生きる権利 ５ 自由に生きる権利 ６ 豊かに生きる権利 ７ 新しい人権 ８ 基本的人権と公共の福祉 ９ 国会の運営と権限 １０ 内閣と行政の民主化 １１ 裁判所と人権保障 １２ 地方自治と住民の福祉 １３ 選挙制度の現状と課題 １４ 世論の形成と政治参加	・現代政治に焦点をあて指導する。切り口を現代政治とすることによって科目「現代社会」の特色を生かすように指導する。 ・司法制度改革、集団的自衛権の条件付き容認など、新鮮なテーマや教材を活用することによって、現代社会への興味や関心を高めるようにする。	15
２ 学 期 期 末	第５章 現代の経済社会と私たちの生活 １ 経済と私たちの生活 ２ 経済体制の変容 ３ 現代の企業 ４ 市場のしくみ ５ 国民所得と私たちの生活 ６ 景気変動と物価の動き ７ 財政の仕組みと税金 ８ 日本の財政の課題 ９ 金融機関のはたらき １０ 戦後日本経済のあゆみ（１） １１ 戦後日本経済のあゆみ（２） １２ 技術革新の進展と産業構造の変化 １３ 中小企業の現状と役割 １４ 食の安全とこれからの日本農業 １５ 雇用と労働問題 １６ 労働環境の整備 １７ 公害の防止から環境保全へ １８ 消費者問題と消費者主権 １９ 社会保障と福祉社会 ２０ これからの社会保障	・経済の問題を、経済原理や歴史的な説明を中心に教えるのではなく、現代経済の問題を中心に教え、その問題の理解を深める。	15
３	第４章 国際政治の動向と日本の役割	・世界で起きているさまざま	19

学 期 末	1 国家主権と国際法 2 国際連合の役割 3 第二次世界大戦後の国際社会	な問題について学び平和な世界を作るための日本の役割について考える。 ・日本の国際貢献に関する問題を、テロ対策特別措置法・ODA・平和憲法などを例にとりながら、国際社会における日本や個人の果たすべき役割や責任を考えさせる。 ・今まで学んだことをもとに、現在の日本の現状について考える。
	4 冷戦終結後の国際社会 5 核兵器の廃絶と国際平和 6 地域紛争と人種・民族問題	
	7 国境と領土問題 8 日本の役割と私たちの生き方	
	第6章 国際経済の動向と日本の役割 1 国際分業と貿易 2 国際経済体制のあゆみ 3 国際収支と為替相場 4 国際経済の動向 5 進む地域的経済統合 6 発展途上国の経済と南北問題 7 国際社会のこれから 第7章 民主社会に生きる倫理 1 豊かな人生を求めて 2 日本の伝統的な考え方 3 近代の西洋社会に見られる考え方 4 近代市民社会から大衆社会へ 5 他者とともに生きる 6 豊かな社会の実現に向けて 第3編 とともに生きる社会をめざして 1 社会保障と消費税 2 震災から復興への道のり 3 人口問題と私たちの未来	

計 75 時間 (47 分授業)

4 課題・提出物等

- ・特になし。
- ・長期休業中の課題については別途指示する。

5 評価規準と評価方法

評価は、次の 4 つの観点から行います。

関心・意欲・態度	・社会の出来事や問題に関心を持っている。 ・自分から積極的に学ぼうとし、課題を探究しようとしている。 ・自分たちの生活をしっかりととらえ、より良いものへ改善しようとする態度や意見が見られる。
思考・判断・表現	・社会での出来事を広い視野に立って考え、いろいろな立場や考え方があり、それぞれ公正に判断しようとしている。 ・自分がどのような筋道で、考えたのかを理解し、反省や思考を繰り返し判断している。 ・自分の考えや意見を正確に伝え表現することができている。
資料活用の技能	・統計や資料を正確に読みとることができる。
知識・理解	・社会の出来事についての基本的な問題、社会のしくみなどをよく理解し記憶している。 ・現代社会の問題はいろいろなことが混じり合っていてできていることを理解している。

このため、評価は具体的には次のものを対象とする。

- ・年 5 回の定期考査（予定） ・授業で活用するプリント ・長期休暇に出題される課題
- ・学習への参加状況

また、1 年間の評定は、1 学期から 3 学期の年間を通じて、上記の内容及び出席状況により総合的に判断して決定する。

6 担当者からの一言

現代社会は今の時代に起こっている出来事、社会のしくみなどを学習し、皆さんの生活に直接関わることが多くあります。高校を卒業して困らないように、一般常識としてしっかりと学習し、自分の知識として利用できるようにしていこう。疑問などは、積極的に質問し、理解を深めていって欲しいと思います。（なお、この計画は、生徒の理解度・状況によって、計画が変更する場合もあります。）

令和2年度シラバス（数学）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科（科目）	数学（数学Ⅰ）	単位数	3単位	学年（コース）	1学年（商業関連学科）
使用教科書	東京書籍「数学Ⅰ Standard」（東書 数Ⅰ318）				
副教材等	東京書籍「Standard Buddy WRITE 数学Ⅰ」				

1 学習目標

数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるとともに、それらを活用する態度が育つことを目標とする。

2 指導の重点

- ① 数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、一次不等式を事象の考察に活用できるようにする。
- ② 二次関数とそのグラフについて理解し、二次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。
- ③ 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。
- ④ 統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。
- ⑤ ①、②、③及び④の内容又はそれらを相互に関連付けた内容を生活と関連付けたり発展させたりするなどして、生徒の関心や意欲を高める課題を設け、生徒の主体的な学習を促し、数学のよさを認識できるようにする。

3 学習計画

学期	単 元 名	学 習 活 動 （指導内容）
1	1章 数と式（23時間） 1節 式の計算 1 整式 2 整式の加法・減法・乗法 3 因数分解 2節 実数 1 実数 2 根号を含む式の計算 3節 1次不等式 1 不等式の性質 2 1次不等式 3 1次不等式の応用	・特定の文字に着目すること、同類項、次数、定数項によって整式を整理することなど、式について色々な見方ができる。 ・式の一部を別の文字に置き換えるなどして、見通しをもって能率よく展開することができる。 ・能率よく因数分解することができる。 ・自然数、整数、有理数、無理数、実数の意味を理解する。 ・平方根を含む式の計算ができる。 ・数量の間の大小関係を不等式で表すことができる。 ・1次不等式を解くことができる。 ・1次不等式を文章題に応用することができるとともに、連立1次不等式を解くことができる。
	3章 2次関数（32時間） 1節 2次関数とそのグラフ 1 関数	・関数を表す記号 $y=f(x)$ を自由に使うことができる。
2	2 2次関数 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定 2節 2次方程式と2次不等式 1 2次方程式 2 2次方程式の実数解の個数 3 2次関数のグラフとx軸の共有点 4 2次不等式 5 2次不等式の応用	・2次関数 $y=ax^2+bx+c$ を $y=a(x-p)^2+q$ の形に変形し、そのグラフを利用できる。 ・最大値や最小値を求めることができる。 ・2次関数のグラフについて、与えられた条件から、その2次関数を決定できる。 ・2次方程式の実数解の個数と判別式 $D=b^2-4ac$ の符号との関係を理解する。 ・2次関数のグラフとx軸の共有点と $D=b^2-4ac$ の符号の関係を理解する。 ・2次不等式の解の意味を理解し、その解を求めることができる。

学期	単 元 名	学 習 活 動 (指導内容)
2	4 章 図形と計量 (25時間) 1 節 鋭角の三角比 1 直角三角形と三角比 2 直角三角形の辺と角 3 三角比の相互関係 2 節 三角比の拡張 1 三角比と座標 2 三角比の性質	- 三角比としての正接, 正弦, 余弦の意味を理解し、30°, 45°, 60° の正接, 正弦, 余弦の値を求めることができる。また、三角比の表を利用できる。 - 三角比を用いて、直角三角形のある辺の長さから他の1辺の長さを求めることができる。 - 鈍角や 0°, 90°, 180° まで拡張した三角比の定義を理解する。
3	3 節 三角形への応用 1 正弦定理 2 余弦定理 3 三角形の面積 4 空間図形の計量 2 章 集合と論証 (12時間) 1 節 集合 1 集合 2 節 命題と論証 1 命題と条件 2 論証 5 章 データの分析 (14時間) 1 節 データの整理と分析 1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばり 2 節 データの相関 1 相関関係 2 相関係数 課題学習 (6時間)	- 正弦定理, 余弦定理を理解し、三角形の辺と角の間の関係について理解を深める。また、既知の辺や角から残りの辺や角を求めることができる。 - 条件に応じて正弦定理や余弦定理を活用し、三角形の面積を求めることができる。 - 集合の包含関係, 共通部分と和集合, 空集合, 補集合, ド・モルガンの法則を理解する。 - 命題と条件, 必要条件, 十分条件, 必要十分条件の用語の定義を学び、更に図表示による包含関係と関連づけて理解する。 - 命題の逆, 裏, 対偶を理解する。また、対偶を利用した証明法や背理法による証明法を習得する。 - 資料の特徴や傾向をとらえるために、度数分布, ヒストグラム, 相対度数で表すことができる。 - 平均値, 中央値, 最頻値について理解する。 - 四分位数, 四分位偏差, 箱ひげ図を理解し、視覚的にとらえることができる。また、偏差, 分散, 標準偏差を理解し、データをもとに算出することができる。 2つの変量の相関関係について理解する。また、相関関係を1つの数字として表す方法として相関係数を理解する。 - 身近な課題について主体的に学習し、数学のよさを認識する。

計112時間(47分授業)

4 課題・提出物等

① 副教材の問題集 ②授業中に配付するプリントなど ③長期休暇中の課題ノート
--

5 評価規準と評価方法

評価は次の4観点から行います。			
①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
以上の点をふまえ、定期考査・長期休業後の課題考査・提出物・授業への取り組みなどから、総合的に判断します。			

6 担当者からの一言

- 授業中は黒板を写すことに専念するのではなく、口頭での注意事項・アドバイスもメモするなど、ノートの取り方を工夫しましょう。後でノートを見て自学自習できるようにしてください。 - 数学はじっくり考える教科です。すぐにあきらめずに、粘り強く取り組みましょう。 - 今まで学習した内容に結び付ける努力をして、類似点、相違点を意識しながら学習しましょう。 - 授業が一番大切です。集中力を高めて授業に積極的に参加をしてください。 - テスト前だけでなく毎日の学習が大切です。少しずつでも毎日復習をしましょう。

令和2年度 シラバス (理科)

学番 9 新潟県立新潟商業高等学校

教科 (科目)	理科 (科学と人間生活)	単位数	2単位	学年 (コース)	1 学年 (商業関連学科)
使用教科書	東京書籍 改訂 科学と人間生活				
副教材等	東京書籍 ニューサポート 改訂 科学と人間生活				

1 学習目標

1. 自然の事物・現象を通して、科学と人間生活との関わりについて理解することができる。
2. 自然と人間の関わりについて考察し、自然に対する総合的な見方や考え方を養う。

2 指導の重点

現代の豊かな人間生活は、科学・技術の発展によってもたらされたものである。しかし、人間の活動規模が増大した結果、地球環境への影響が無視できないようになってきている。さらに、物質・エネルギー資源の有限性の問題、温暖化による気候変動や自然災害の発生など、解決すべき課題も多い。
科学と人間生活と自然との関わり合いに関する学習を通して、かつて人類が経験したことのない来るべき人為的な地球環境の変動を食い止めるために、私たちの経済活動や日常生活の中でできることを自らの知識で判断し、実践していくことのできる力を養成していくことを目標とする。そのためには、科学的データを定量的にとらえ、その内容を理解し、科学的な記述や説明を理解できるようになることが必要といえる。

3 学習計画

学期	月	学 習 内 容	時間
1 学 期	4	プロローグ 科学技術の発展	1
	5	1編 生命の科学 2章 微生物とその利用 1. さまざまな微生物 2. 微生物と人間生活のかかわり 病原体としての細菌やウイルス、生態系内での微生物の役割 実験：顕微鏡の使い方、身のまわりの微生物の観察、アルコール発酵	15
	6	2編 物質の科学 2章 衣料と食品 1. 衣料 2. 食品 繊維の種類や性質、繊維の製法や利用、原子どうしの結合、炭水化物 実験：繊維の性質	12
	7		
2 学 期	8	2章 衣料と食品	8
	9	2. 食品 タンパク質、油脂、食の安全 実験：炭水化物の性質 タンパク質の性質	
	10	3編 光や熱の科学 2章 熱の性質とその利用	20
	11	1. 熱とは何か 2. 熱と人間生活 温度、熱量の保存、ジュール熱、エネルギーの有効利用 実験：金属の比熱の測定	
	12		
		4編 宇宙や地球の科学	2

3 学 期	1	4編 宇宙や地球の科学 2章 身近な自然景観と自然災害	12
	2	1. 身のまわりの景観の成り立ち 2. 自然災害と人間 プレートテクトニクス、火山、地震・津波と災害、気象災害	
	3	5編 課題研究	5

計 7 5 時間(4 7 分授業)

4 課題・提出物等

- ・各単元の内容に関して、復習プリントによる授業内小テストを実施する。
- ・実験や観察のレポートは実施時間内に作成し、提出することを原則とする。

5 評価規準と評価方法

評価は、次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	自然の持つ系統性や法則性に興味を持ち、自然の事物・現象を科学的に見る意欲や態度を持っている。
思考・判断・表現	エネルギーの考え方と物質の成り立ち、生命活動と地球をめぐる環境を中心とした視点で、自然を総合的に考察できる。 実験・観察の結果を科学的に考察し、様々な現象の説明ができる。
観察・実験の技能	自然の事物・現象を科学的に探求するための基礎的な実験技術を身につけている。
知識・理解	エネルギー、物質、生命活動、地球環境と人間生活との関わり合いという視点で、科学の基礎概念や原理法則を理解し、自然を科学的な目で見ることができる。

このため、評価は具体的には次のものを対象とします。

- ・年3回の定期考査
- ・授業時間内の小テスト
- ・授業で活用するプリント
- ・実験・観察のレポート
- ・学習への参加、提出物等への取り組み状況
- など

また、1年間の評定は、1学期から3学期の年間を通じて、上記の内容及び出席状況により総合的に判断して決定します。

6 担当者からの一言

人類はかつて経験したことのない、自らの繁栄が引き起こした地球規模の環境変動の驚異にさらされていることは、もはや明白なことです。しかし、発達した科学技術を駆使することで、その驚異を軽減することも可能と考えられており、人類にはその実現に向けて努力することが必要です。そのためには、科学技術が一部の専門家だけに独占されたものではなく、多くの人に広く理解し、対策を実践してもらい必要があると思います。

人類の目標に向かって協力し合うための知識を皆さん一人一人が持つためにも、自然科学の各分野にこだわることなく、幅広い知識を身につけてもらいたいと思います。

令和2年度シラバス（保健体育）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科（科目）	保健体育（体育）	単位数	3単位	学年（コース）	1学年（商業関連学科）
使用教科書	最新高等保健体育 改訂版				
副教材等	最新高等保健体育ノート				

1 学習目標

- ・ 運動の実践を通して、運動技能を高め、仲間とともに楽しさ・喜びを深く感じることができる。
- ・ 日頃の体調を整えるとともに、体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育む。
- ・ 生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

2 指導の重点

- ・ 自己の能力を高めるために、あきらめずに取り組む姿勢を身につける。
- ・ 仲間とともに楽しさ・喜び・感動を分かち合いながら実践していく能力を身につける。
- ・ 様々な運動の特性を理解して、仲間とともに協力しながら実践し、互いに技能を高める。
- ・ 球技等のチームゲームにおいては、自己の役割を理解してチームに貢献する。
- ・ 安全に留意しながら、互いに相手を尊重して、公正な態度で試合ができるようにする。

3 学習計画

学 期	月	学習内容 A（2単位）	学習内容B（1単位）	時間
1学期	4	学校体操	体づくり運動（2） 選択 柔道・剣道・ダンス	3 5
	5	陸上競技 （短長距離・ハードル走・円盤投げ）		
	6	↓		
	7	選択（屋外Ⅰ期） ゴール型・ネット型・ベースボール型 （サッカー・テニス・ソフトボール）		
2学期	9	↓	体づくり運動（2） ↓	4 5
	10	↓		
	11	選択（屋内Ⅰ期） ゴール型・ネット型		
	12	〔バスケ（男子）・バレー（女子） バドミントン（男女）・卓球（男女）〕		
3学期	1	選択（屋内Ⅱ期） ゴール型・ネット型 〔バスケ（女子）・バレー（男子） バドミントン（男女）・卓球（男女）〕	体づくり運動（2）	3 2
	2	〔バスケ（女子）・バレー（男子） バドミントン（男女）・卓球（男女）〕	体育理論（6）	
	3			

計112時間(47分授業)

4 課題・提出物等

特になし（但し、長期欠席や見学等の場合は課題の提出が必要な場合もある。）

5 評価規準と評価方法

評価は、次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	・ 運動の楽しさや喜びを学び、自ら積極的に参加している。 ・ 公正、協力、責任などの社会的態度が身についている。 ・ 健康、安全に留意しながら運動を実践している。
思考・判断	・ 運動の特性に応じた課題を自己やグループにおいて課題解決を目指し、工夫し活動している。
運動の技能	・ 自己・グループの能力と運動の特性に応じた課題を考慮しながら、自己・グループの技能向上を行っている。 ・ 与えられた課題を克服している。
知識・理解	・ 運動の大切さを理解して、体力の向上に努めている。 ・ 運動の特性、自己の体力・能力にあわせての高度の技術を理解している。

このため、評価は具体的には次のものを対象とします。

出欠席の状況

授業中の態度（意欲）

実技のテスト等

また、1年間の評定は、1学期から3学期の年間を通じて、上記の内容及び出席状況により総合的に判断して決定します。

6 担当者からの一言

- ・ 体調管理をしっかりと行い、授業に臨むこと。
- ・ 本校指定の体操着、内履き、外履きを着用すること。
- ・ 授業開始に遅れないよう活動場所に集合、整列しておくこと。
- ・ 見学する場合は授業の1時間前までに担当者に申し出、指示を受けること。
- ・ 貴重品は各自がしっかりと管理すること。

令和2年度シラバス（保健体育）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科（科目）	保健体育（保健）	単位数	1単位	学年（コース）	1学年（商業関連学科）
使用教科書	大修館書店 最新高等保健体育 改訂版				
副教材等	大修館書店 最新高等保健体育ノート				

1 学習目標

- ・ 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めること。
- ・ 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を養うこと。
- ・ 一学年次においては、疾病構造・社会の変化に対応しながら健康の保持増進するための知識や理解を深めることと適切な行動選択の実践や環境を改善していく努力の重要性を理解する。

2 指導の重点

- ・ 健康の考え方や保持増進の方法は変化しており、健康に関する個人の適切な意志決定・行動選択が重要となっていることを理解させる。
- ・ 健康の保持増進と疾病の予防をするための、適切な生活習慣（食事・運動・休養・喫煙禁止・飲酒制限）の確立が重要となっていることを理解させる。
- ・ 薬物乱用は決して行ってはいけないことを理解させる。
- ・ 感染症、性感染症の予防について適切な対策を理解させる。
- ・ 精神の健康についての理解を深め、欲求やストレスに適切に対処するとともに、自己実現を図るよう努力をすることの大切さを理解させる。
- ・ 交通事故を防止するための安全な運転、適切な行動、自他の生命を尊重する態度を養い、交通事故の責任について理解させる。
- ・ 応急処置や心肺蘇生法を正しく理解させる。

3 学習計画

学 期	月	単 元 名	学 習 活 動（指導内容）	時間
1学期	4	1 健康の考え方や成り立ち	1 健康の考え方を深く理解する。	1 3
		2 私たちの健康のすがた	2 健康水準、健康課題について理解する。	
	5	3 健康に関する意志決定・行動選択と環境づくり	3 健康に関する意志決定・行動選択とヘルスプロモーションについて理解する。	
		4 生活習慣病とその予防	4 生活習慣病とその予防について理解する。	
	6	5 食事と健康	5 健康の基礎となる食事のあり方について理解する。	
	7	6 運動・休養と健康	6 適度な運動、疲労回復のための休養についての理解を深める。	
2学期	9	7 喫煙と健康	7 喫煙の健康被害について理解する。	1 5
		8 飲酒と健康	8 脳や体に影響を及ぼす飲酒についての理解を深める。	
		9 薬物乱用と健康	9 薬物乱用による健康被害と社会全体への影響について理解する。	
	10	10 感染症とその予防	10 変化する感染症についての理解を深める。	
		11 性感染症・エイズとその予防	11 性感染症・エイズとその予防について理解を深める。	
	11	12 欲求と適応機制	12 さまざまな欲求や適応機制について理解を深める。	
	12	13 心身の相関とストレス	13 心身相関やストレスからの心や体の影響について理解する。	
		14 心の健康のために	14 ストレスへの対処や自己実現について理解する。	

3学期	1	15 交通事故の現状と要因 16 交通事故を防ぐために	15 事故の原因の理解や要因について理解する。 16 運転者の責任や安全な交通社会の取り組みを理解する。	10
	2	17 応急手当の意義とその基本 18 日常的な応急手当 19 心肺蘇生法の原理とおこない方	17 適切な応急手当の意義を理解する。 18 簡単な応急処置について実践・理解をする。 19 心肺蘇生法の原理と実践による理解を深める。	

計38時間(47分授業)

4 課題・提出物等

・各学期の保健ノート提出等

5 評価規準と評価方法

評価は、次の3つの観点から行います。

関心・意欲・態度	- 健康について興味・関心をもっている。 - 資料等を見ながら、意見等の交換ができる。
思考・判断	- 経験や資料等をもとに、課題の解決の方法を模索する。 - 一学年次においては、疾病構造・社会の変化に対応しながら自らの日々の健康を適切に管理し改善している。
知識・理解	- 健康や安全について、課題解決に役立つ知識を身につけている。 - 適切な行動選択や環境改善について理解している。

このため、評価は具体的には次のものを対象とします。

- ・年3回の定期考査
- ・保健ノート等の提出
- ・授業中の態度、質問への応答

また、1年間の評定は、1学期から3学期の年間を通じて、上記の内容及び出席状況により総合的に判断して決定します。

6 担当者からの一言

- ・授業は必ず参加すること。(1単位しかない為、1回の欠席でも大きな問題となる可能性がある)
- ・授業に積極的に参加すること。(居眠り、私語等は厳しく対処します。)
- ・保健ノートはしっかりと記入すること。(板書、先生が話したこと等、メモのスペースを使うなど有効利用を心がける)新たに保健のノートを準備する必要はありません。

令和2年度シラバス（外国語）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科（科目）	コミュニケーション英語 I	単位数	3単位	学年（コース）	1 学年（商業関連学科）
使用教科書	Grove English Communication I（文英堂）				
副教材等	・ Grove English Communication I ワークブック ・ Bricks 1（いっずな書店） ・ デュアルスコープ総合英語（数研出版）				

1 学習目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

2 指導の重点

- ①英文を読んで内容を理解し、概要や要点を把握する力を養う。
- ②基本的な文法事項を習得させると共に、単語力、熟語力を養う。
- ③英文をリズムやイントネーションに注意しながら音読できる力を養う。
- ④学習した文法や語句を用いた英文を聞いて、その内容を理解できる力を養う。
- ⑤学習した文法や語句を用いて自分の考えを話したり書いたりする力を養う。

3 学習計画

期	単元名	学習内容	時間
1 学 期 中 間	Lesson 1 <i>Omotenashi:</i> The Spirit of Japan	・外国からの旅行者が関心を持つ事柄を知る。 ・「おもてなし」とはどのような精神なのかを理解する。 ○主部と述部 / 「S+V」「S+V+C」「S+V+O」 / 現在・過去・未来を理解する。	28
	Lesson 2 Why Is That So?	・なぜ時計が右回りなのかを理解する。 ・なぜ女性の服のボタンは左側についているかを理解する。 ○冠詞+(形容詞)+名詞 / to 不定詞(名詞的用法) / 動名詞を理解する。	
1 学 期 期 末	Lesson 3 The <i>Bento</i> Goes International	・日本の弁当について理解する。 ・世界に広まりつつある弁当について知る。 ○進行形 / 「S+V+O₁+O₂」 / 「S+V+O+C」を理解する。	28
	Lesson 4 Owen and Mzee: An Amazing Friendship	・カバが岩礁に取り残された状況を理解する。 ・カバが村人により保護された経緯を理解する。 ○現在完了形 / 「S+V+O(=that 節)」 / 過去完了形を理解する。	
2 学 期 中 間	Lesson 5 The Impossible Is Possible	・高野秀行氏がどのような人物かを知る。 ・若者に伝えたい高野氏のメッセージを理解する。 ○分詞の形容詞的用法 / to 不定詞(形容詞的用法) / 受け身を理解する。	30
	Lesson 6 Eric Carle: How He Creates His Art	・エリック・カールが絵本を創作する過程について理解する。 ・アイディアがどこから生まれるかを理解する。 ○関係代名詞 / to 不定詞:副詞的用法 / 関係代名詞 what を理解する。	

2 学 期 期 末	Lesson 7 The Netherlands - Living with Water	・オランダと日本の関係について知る. ・地形の特徴について理解する. ○比較 / It is+～(for～)+ to 不定詞 / 「S+V+O+to 不定詞」 / S+V+O₁+O₂(=that 節)を理解する.	30
	Lesson 8 Collective Intelligence	・「集合知」とはどのようなものか理解する. ・アリはどうして交通渋滞を起こさないのかを知る. ○「S+V+O(=疑問詞節など)」 / 「S+V+O+C(=現在分詞) / 「S+V+O+ C(=原形不定詞)」 / It is+形容詞[名詞]+that 節を理解する.	
3 学 期 期 末	Lesson 9 10 Billion	・世界人口の推移とその影響について知る. ・地球上で起こっている問題と、それを食い止めるためにできることを考える. ○助動詞を含む受け身 / 関係副詞 / 仮定法過去 / 現在完了進行形を理解する.	33
	Lesson 10 One Child, One Teacher, One Book and One Pen	・マララさんの演説を聞き、マララさんが訴えかけている内容を理解する. ・2012 年 10 月 9 日にマララさんに起こったことを知る. ○分詞構文 / 「S+V+O₁+O₂(=疑問詞節など)」 / 強調構文 / 仮定法過去完了を理解する.	
	For Reading Hairspray	・1960 年代当時の高校生の様子を理解する. ・物語の展開と結末を理解する.	

計 149 時間 (47 分授業)

4 課題・提出物等

- ・朝学習を実施する。
- ・授業内で毎週単語テストを実施する。
- ・長期休業毎に課題を指示し、各学期始めに課題考査を実施する。

5 評価規準と評価方法

評価は、次の 4 つの観点から行います。			
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
積極的な態度で言語活動に参加し、相手とのコミュニケーションを図ろうと努力している。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。	英語を聞いたり、読んだりして理解し、概要や要点をとらえることができる。	英語やその運用についての知識を身に付けるとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
各学期の評価は具体的には次のものを対象とし、出席状況を加味し、総合的に判断して決定する。 ・定期考査 ・課題考査 ・パフォーマンステスト ・単語テスト ・平常点 (授業での積極性、指示された活動・課題への取り組みや提出状況など) 学年末の評価は、各学期の評価から総合的に判断して決定する。			

6 担当者からの一言

予習を前提とします。授業では語句の意味や文の内容についての質問に答えられるようにしておいてください。そのうえで文中での意味や使い方を確認し、単語の発音・アクセントや英文の読み方を練習していきます。発音練習や音読練習でしっかり声が出るよう頑張ってください。また、文法事項等きちんと理解できるように説明や板書をノートやプリントに書き留めてください。復習では、英文の音読練習により学習した英文の内容を再確認してください。また、学習した語句を正しく書けるように、書く練習も繰り返し行ってください。

令和２年度シラバス（外国語）

学番 9 新潟県立新潟商業高等学校

教科（科目）	英語表現 I	単位数	2単位	学年(コース)	1 学年(商業関連学科)
使用教科書	Revised BIG DIPPER English Expression I（数研出版）				
副教材等	Revised BIG DIPPER English Expression I ワークブック(数研出版) デュアルスコープ 総合英語（数研出版）				

1 学習目標

- 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- 英語を通じて、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

2 指導の重点

情報や考えなどを理解し伝えることができるように、具体的な言語の使用場面を設定して、相手や目的に応じて、簡潔に話し、書き、発表する言語活動を英語で行う。

3 学習計画

期	単元名	学習内容	時間	評価方法
1 学 期 中 間	【PART 1】			
	Lesson 1 はじめに①	・「だれが」「～する」をはっきりと	14	・ 定期考査 ・ Review Quiz ・ Workbook等提出物 ・ 授業への取組み
	Lesson 2 はじめに②	・ 動詞をうまく使おう		
	Lesson 3 はじめに③	・ 名詞の数などに気をつけよう		
	Lesson 4 My Friends	・ 肯定文・否定文／疑問文		
	Lesson 5 My Family	・ 現在・現在進行形／過去・過去進行形		
	Lesson 6 Past Time	・ 未来表現		
1 学 期 末	Lesson 7 My Town	・ 現在完了形／過去完了形	14	・ 定期考査 ・ Review Quiz ・ Workbook等提出物 ・ 授業への取組み
	Lesson 8 Our Teachers	・ 助動詞①		
	Lesson 9 Visiting a Museum	・ 助動詞②		
	Lesson 10 Famous People	・ 文型		
	Lesson 11 Reading	・ 受け身		
	Lesson 12 Studying Abroad	・ 不定詞①		
	Lesson 13 Advice	・ 不定詞②		
2 学 期 中 間	Lesson 14 Hobbies	・ 動名詞	15	・ 定期考査 ・ Review Quiz ・ Workbook等提出物 ・ 授業への取組み
	Lesson 15 My Vacation	・ 分詞		
	Lesson 16 In a Zoo	・ 比較①		
	Lesson 17 Our Team	・ 比較②		
	Lesson 18 Neighbors	・ 関係詞①		
	Lesson 19 Speeches	・ 関係詞②		
	Lesson 20 My Wish	・ 仮定法		
2 学 期 末	Lesson 21 A Birthday Gift	・ 接続詞	15	・ 定期考査 ・ Review Quiz ・ Workbook等提出物 ・ 授業への取組み
	【PART 2】			
	Lesson 1 School Life	・ 勧誘する, 提案する		
	Lesson 2 School Subjects	・ 依頼する, 理由を聞く・述べる		
	Lesson 3 Free Time	・ 確認する, 訂正する		
	Lesson 4 Feeling Well?	・ 心配する, 助言する		
	Lesson 5 Housework	・ 義務・必要を述べる		
2 学 期 末	Lesson 6 The Internet Is Fun	・ 期待・確信を述べる	15	・ 定期考査 ・ Review Quiz ・ Workbook等提出物 ・ 授業への取組み
	Lesson 7 I've Lost Your Book	・ 謝罪する, 謝罪に応じる		

学年末	Lesson 8 Planning a Trip Lesson 9 Experiences Abroad Lesson 10 Exchange Students Lesson 11 I Want to Be a ... Lesson 12 Cheer Up Your Friend Lesson 13 Farewell Party Lesson 14 Saving Resources Lesson 15 Social Problems	・計画する, 予定する ・感想を尋ねる・述べる ・程度・結果を述べる ・願望・目的を述べる ・同情する, 励ます ・感謝する, 喜ぶ ・賛成する, 反省する ・意見を尋ねる・述べる	17	・定期考査 ・Review Quiz ・Workbook 等 提出物 ・授業への取組み
-----	---	---	----	---

4 課題・提出物等

- ・定期考査毎にワークブックを提出する。
- ・英作文（自己紹介・他者紹介・Show&Tell など）を作成し提出する。
- ・作成した英作文を発表する。

5 評価規準と評価方法

評価は、次の4つの観点から行います。			
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、英語を聞いたり話したりして積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとすることができる。	日常生活の身近な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、発表したりして表現できる。	日常生活の身近な話題について、比較的平易な英語を聞いて、情報や考えなど、相手が伝えようとすることを理解できる。	日常生活の身近な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。
具体的には次のものを総合的に判断し、評価します。 ・年5回の定期考査 ・パフォーマンステスト ・授業中に実施する小テスト ・平常点①（暗唱練習・ペアワーク、ロールプレイなどの授業への取り組み状況） ・平常点②（課題英作文の提出・内容・発表）			

6 担当者からの一言

日常生活の身近な話題について、書いたり話したりできるようになることを目指します。また、聞くこと、読むことも大切にし、その活動を通して書く、話す力の向上につなげます。積極的に音を聞き、書き取り、音読し、考える習慣をつけましょう。様々なトピックを個人もしくはグループで話し合い、自分と他人の意見を比較することで考えの幅を広げ、自分の意見をまとめる力の向上に努めましょう。

令和2年度シラバス（家庭）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科（科目）	家庭基礎	単位数	2単位	学年（コース）	1学年（商業関連学科）
使用教科書	開隆堂『家庭基礎 明日の生活を築く』				
副教材等	第一学習社『2020 最新 生活ハンドブック 資料&成分表』 開隆堂『家庭基礎学習ノート』				

1 学習目標

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

2 指導の重点

生きる力を育成し、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視していることから

- ① 家庭に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得。
- ② 学んだ知識や技術を生かして、各自の家庭生活や地域の生活を見つめ、主体的に課題を見つけ、改善し、充実していこうとする積極的な態度を高める。
- ③ さらに課題を解決するために授業を通し、必要な思考力、判断力、表現力等の能力を高める。
を指導の重点としています。

3 学習計画

学 期	月	学習内容
1学期	4	家庭基礎を学ぶにあたって 「自分らしい生き方と家族」（8時間） ・ 自分を見つめる ・ 自立した生き方・共に生きる人生 ・ 共に生きる家族 ・ 家族に関する法律 ・ 生活を支える労働と生活時間
	5	「高齢者とかかわる」（8時間） ・ 高齢社会に生きる私たちの暮らし ・ 豊かな高齢期を迎えるしくみ 「生活設計」（2時間） 「衣生活をつくる」（10時間）
	6	・ 衣服の素材 ・ 衣生活の管理 ・ 基礎縫いをとりいれた作品製作
	7	「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」（1時間） ・ 点字の歴史を学び点字で名刺を作る（学校家庭クラブ活動）
2学期	9	「食生活をつくる」（17時間） ・ 私たちの食生活（夏休みの食事記録の分析、食生活の現状と問題点） ・ 食事の計画と調理（食事摂取基準と食品摂取量のめやす） ・ 食品の衛生と安全
	10	調理実習（第1回）（2時間） ・ 栄養と食品のかかわり ・ 食品の選び方 調理実習（第2回）（2時間）
	11	・ これからの食生活を考える 調理実習（第3回）（2時間）

	12	「子どもとかかわる」(10時間) ・ 親になることを考えよう
3学期	1	・ 子どもを知る(赤ちゃん人形を使った実習) ・ 発達のすばらしさ ・ 子どもの生活(子どもの遊びの実習) ・ 健やかに育つ環境
	2	「消費行動を考える」(7時間) ・ 社会の変化と消費生活 ・ 消費者の権利と責任 ・ 経済のしくみを知る ・ ライフステージと経済計画
	3	「住生活をつくる」(6時間) ・ 健康で安全な住まい ・ 住まいを計画する

計75時間(47分授業)

4 課題・提出物等

- ・ 実験実習のレポートは必ず提出してください。
- ・ 作品は授業時間内に完成させ提出してください。
- ・ 夏季休業中の課題(ホームプロジェクト)があります。必ず提出してください。

5 評価規準と評価方法

評価は、次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。
思考・判断・表現	家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し、創造する能力を身に付けている。
技能	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。
知識・理解	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

以上の点を踏まえ、評価は下記のものを対象とします。

- ・ 学期ごとの定期考査
- ・ 授業・実習の取り組み状況(授業態度、学習活動への参加状況、発言や発表の仕方、提出物の有無)
- ・ 授業で活用するプリントの取り組み状況、提出の有無
- ・ 授業時間に実施される小テスト
- ・ 製作した作品の提出の取り組み
- ・ 夏季休業中に出題される課題の提出状況

また、1年間(学年末)の評定は、1学期から3学期の年間を通じて、上記の内容及び出席状況などから、総合的に判断します。

6 担当者からの一言

家庭科では、人の一生を見通しながら、自立して生活する能力と異なる世代と関わり、共に生きる力を育てることを重視しています。そのため、今の生活を見つめ、よりよくするために具体的な事例や体験的な学習を通して、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度の育成を目指しています。さらに、生涯を見通して生活を設計する力を身につけさせるために、一人ひとりが生きる力を確実に身につけ、実践できる内容に重点をおいて学習していきます。